

瓶の中の世界

伊東 敏夫

私がボトルシップに初めて出会ったのは50年位前、渋谷のスナックに飾ってあった瓶の中に入ったSLです。

『驚愕』という表現がピッタリな感じでしたが、同時に『これは自分にも出来るかも』と思い、試行錯誤しながらも夢中でプラモデルの戦車を瓶の中にくつつか作ったことを覚えています。

そして空白の30数年が経った2011年秋、地元『青葉ボトルシップ愛好会』というサークルがあることを知り即入会。

瓶の中に帆船を作るノウハウを教えてもらい、かなりの数の作品を製作しました。友人が所有するヨットの写真をもらい、それを基に製図して瓶の中に入れて贈ったこともあります。

しかし元来、船は好きではないので鉄道など船以外に傾注、今は手芸の『手まり』を瓶の中に作ったりしています。

ボランティア活動

愛好会としては20年近くにわたり、小学生3～6年を対象に夏休みの工作（自由研究）となる『小学生ボトルシップ教室（2日間コース）』を開催しており、今年も7月22、23日に開催します。工作なので参加する小学生は男子というイメージがありますが、例年女の子のほうが多いです。



手毬

絶滅危惧趣味

しかし最近、高齢化のせいでしょうか多くの趣味サークルでメンバーが減っているようです、ボトルシップも例外でなく、東京や横浜にあったサークルもいくつかなくなったりしているようです。

切手収集の趣味などと共に『絶滅危惧趣味』と言う人もいますが、青葉ボトルシップ愛好会は今のところ頑張って活動しています。



昭和シェル号



飛行機